

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年 7月20日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1671800447		
法人名	医療法人社団 萩野医院		
事業所名	グループホーム やつお		
所在地	富山県富山市八尾町井田610-1		
自己評価作成日	平成29年6月14日	評価結果市町村受理日	平成29年8月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成29年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>当事業所は経営母体である萩野医院との連携により、医療面で充実しており、利用者、家族のみならず、職員も安心して働ける環境であると考えている。現在、利用者の重度化に伴い、職員、家族が協力し合い利用者を支えている。今年度より、法人内に地域包括支援センターも加わり介護面でも相談しやすい環境になってきている。今後も、地域に根ざした事業所として、認知症の方が安心して共に暮らしていくことが出来るよう支援していきたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員は「ゆっくり、楽しく、和やかに」をモットーに、入浴や食事など、さまざまな場面で、利用者一人ひとりのペースに合わせた支援に努めている。また、日頃の会話の中からも利用者の笑顔を引き出せるようコミュニケーション力を高めたり、夏の流しそうめんやおわら風の盆見物など、季節を身近に感じてもらいながら和やかな雰囲気をつくるよう心がけている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

グループホームやつお

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念と共に、事業所ごとの目標を毎年掲げ、毎朝、復唱し実践している。今年度は、利用者の重度化に伴い、職員同士が協力し合い、笑顔で対応出来るよう努めている。	法人の理念を踏まえ、職員で話し合っって事業所独自の年度目標をつくり、ミーティング時などで確認し合い、意識の統一を図りながら理念の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	色々な地域行事の参加や、地域の保育所、高校との交流を行っている。回覧板を散歩がてら届け、地域の方との交流も持っている。	近くの保育園との相互訪問、高校生のサマーボランティア、地区の餅つき大会など、地域の色々な年代の人達と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員全員、認知症サポーター研修を受けている。その他、入居相談時などに、認知症の問題行動等の相談も受け、その方に合った対応方法を伝えている。また、高校に出向き、認知症の講義を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催している。会議の中で、行事や研修の報告を行っている。家族目線の意見や地域の方の意見など、色々な視点からの情報を得ることができ、ケアに生かしている。	事業所からの行事報告の後に、「その行事に家族も参加してもらったらどうか」と提案してもらおうなど、それぞれのメンバーからの多様な意見を運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政センターの方に運営推進会議に参加して頂いている。また、市の介護相談員を受け入れ、来訪時に日頃の状態を伝えている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員と行政センターの職員の参加があり、日頃の取り組み状況を伝えている。また、法人本部が市との窓口となり、連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年研修にて、身体拘束による弊害や対象となる具体的な行為などを学び、日々のケアの中で、どうすれば拘束しないケアができるかを、事業所内だけでなく、法人内の看護師、理学療法士、ケアマネージャーの意見を聞きながら検討している。	どのようなことが身体拘束になり、何故、行ってはいけないのかを掘り下げて研修会などで学び合っている。また、言葉による抑制も含めて、利用者ごとの支援方法を考え、職員が協力し合って、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修も毎年行い、正しい知識を学ぶことで、より良い介護を目指している。職員の精神面を配慮し負担軽減のため、職員同士の声の掛け合いや、時には業務の交代を行うことで、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の利用があり、法人本部と今後の対策を話し合い、後見人、家族（利用者代理人）、事業所側の役割を明確にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い同意を得ている。後日、疑問点などがあれば、その都度理解が得られるまで説明を行っている。料金変更時には、文書にて変更のお知らせを送っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などを利用し、気軽に意見や要望を聞くようにしている。毎年、満足度調査を実施し、その結果を家族交流会の中で発表している。また、職員に結果内容を伝えカンファレンスで話し合いケアの向上に努めている。	家族からの満足度調査の結果や日頃の要望などを大切にし、具体的な改善方法を家族交流会などで報告し、改善につなげるなど、家族等の意見を運営に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から個別に職員の意見や提案を聞いたり、カンファレンス等で介護や業務に関する意見や提案を話し合い、本部に報告し法人全体で、働きやすい環境づくりに取り組んでいる。	職員は、毎月のカンファレンスで利用者の状態の変化に合わせた事業所の業務の見直しなどの意見や提案を出し合っている。また、管理者は、職員個々の思いに耳を傾け、職員意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、職員の能力、努力や実績、勤務状況を把握し、代表者に報告している。それらが給与や賞与に反映され、やりがいや向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員が適切な部署で働けるよう検討している。法人では職員の介護の質が高まるよう年間の研修計画を立て、毎月施設内研修及び集合研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地元（八尾）の福祉施設同士の交流会に参加し交流を持っている。また、他施設からの入居や他施設への転居時に訪問を行い情報の共有を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面談したり、家族や担当のケアマネージャーからの情報を基に十分な観察と寄り添う介護を心掛けている。そして要望や不安の把握に努め、安心できる生活へと支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時や入居時に家族と面談し要望や不安を確認している。また、入居以降も面会時に近況を伝え、これまでの暮らしについての話を聴きながら家族との関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時より、利用者や家族の状況を確認し、必要と思われる介護サービス情報や医療情報を伝え相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事、やりたい事を知り洗濯物や茶碗拭きなどで力を発揮してもらっている。共に喜び支え合う関係を築けるよう、努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信や家族の面会時に、本人の状況や家族への思いを伝えている。利用者の重度化に伴い、家族の面会が増え、食事介助なども行って下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	面会に制限はなく、自宅に居る時のような気軽さで、来て頂いている。また、家族の協力により、好きなカラオケや墓参り、外食などを楽しんで頂いている。	向かいのディサービスに通う友人と再会を喜び合ったり、家族の協力を得てカラオケに出かけ、好きな曲を思い切り歌うなど、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の暮らしの中に、共に楽しめるようなレクリエーションを取り入れている。孤立しがちな方へは職員が間に入り、利用者同士の関係が悪化しないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設または病院へ転居される場合は、詳しい情報提供を行い、退去後も相談に応じている。また、永眠された場合は、葬儀に参列させて頂き、家族と共に最後のお別れをしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の重度化に伴い、本人の意思表示が聞き取りにくくなっているが、本人の行動や、目の動き、表情などを日々の違いを感じ取り、ケアに生かしている。	利用者と目線を合わせ、ゆっくりと話しかけ、うなづき方などに留意し、本心を推し量るよう心がけている。また、表情などの些細な変化も見逃さないようにし、心の変化も感じ取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしは、本人や家族、担当のケアマネジャーから情報を得て参考にしている。また、日常の会話の中からも情報を聞き取りサービスの向上に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝、申し送り時にミニカンファレンスを行い、記録に反映し難い情報などを聞き取っている。また、カンファレンス時に個々の情報をまとめ、総合的な把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝、夕方の申し送りや毎月のカンファレンスで課題を見つけ、本人や家族の要望を反映させながら、職員で話し合っている。介護計画は家族に説明した後、職員にも確認してもらい、介護を実践している。	申し送り時や毎月のカンファレンスで話し合い、職員の気づきや提案、家族の要望などを取り入れた介護計画を作成している。また、法人内の看護師や管理栄養士などからアドバイスをもらい、本人の現状に即したものを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護の実践の結果や気づきは毎日、個別の日誌に記録し、申し送り時に伝えている。申し送りノートも活用し、情報共有を図っている。また、介護計画は期間を設定し、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週に一回、訪問診療を受けており、火曜日と金曜日、萩野医院からのバスに乗り、医院にてリハビリを受けている方もいる。家族の協力により、他の病院への受診も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週一回のボランティアによる紙芝居や新聞の読み聞かせ、サマーボランティアによる、言葉遊びや塗り絵、近隣の保育園児の歌や踊り、地元の獅子舞いやおわら見学、地域の方々の支援を受けて楽しんでもらってる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日中に限らず、夜間帯でも緊急時に、主治医と連絡を取り、対応することが出来る。専門的な治療が必要な場合は、萩野医院から紹介状を書いてもらい適切な病院を紹介している。	法人の「医療と介護の連携体制」を利用者や家族が希望し、訪問診療を受ける中で、体調の変化などに対応している。また、利用者一人ひとりのケア方法の指示を受け、適切な支援につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎日、体温や血圧を測定し、食事や排泄、顔色なども観察し気づいたことを看護師に報告している。萩野医院と連携し、適切な治療や看護が受けられる体制を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、地域医療連携室と連絡を取り、入居者や家族が安心して納得できる治療が受けられるよう努めている。また、退院に向けた相談を密接に行うことで、退院後にこれまでの生活に、いち早く戻るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、体調変化時、看取りの段階に入った時と何度も本人や家族と話し合いを重ね理解を頂き、できる事を検討し苦痛の緩和や精神的な支えも図りながら、最期まで本人らしい暮らしが出来るよう努めている。	本人や家族の「長年住んでいたやつおで最期を迎えたい」との希望に応え、かかりつけ医の指示のもと、家族と協力しながら、日頃の暮らし方に沿った支援を行っている。また、揺れ動く家族の気持ちに寄り添い、丁寧な説明や話し合いに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所には、AEDが設置されており、救命入門コースの研修を行い、全職員が実践力が身に付くよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員、年二回の避難訓練に参加している。訓練には、昼夜を想定して内容を決めている。連絡網を回し、時間を計り、確認している。災害に備えての、備品の入れ替えは定期的に行われている。	昼夜を想定しての火災避難訓練は、年2回実施し、また、ラジオや飲料水などの備蓄を行い、災害に備えている。	水害については、避難場所を確認しているが、具体的な避難計画は作成していない。今後は、大雨時の河川の氾濫や浸水に対する避難計画を立てることが期待される。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重するケアは、理念にも掲げており、大切にしている。年二回自己チェック表を記入し、振り返る機会を設けている。本人を思いやり、プライバシーの配慮に欠けぬよう、個々に合わせた言葉をかけ、対応している。	笑顔で接するように心がけ、利用者の表情を見ながら言葉を選んだり、声のトーンを変えたりして、利用者のプライドを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者に毎日、飲み物メニューから飲み物を選んでもらっている。目を合わせ、声を掛け、うなづくなどの反応を見逃さないようにしながら、希望に応じた対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の心身の状況に、合わせた一日が過ごせるよう柔軟な介護に努めている。その方のペースに合わせた生活を送れるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に好みの服を選んで着ている方がいる。理容組合から毎月、理容師が訪問をしており、好みの髪形を伝えている。年二回、わくわくおしゃれデーを開催し、職員により、お化粧やマッサージを楽しんでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養科で毎月献立を立てているが、利用者の好みを把握し、苦手な食材は出来るだけ差し替えを行い提供をすることで、食事を楽しんで頂き、嚥下能力に合わせた形態で提供している。食事の片付けや茶碗拭きなど、職員と一緒にやっている。	食事の形態は一人ひとり違うが、いずれの場合も美味しいと思ってもらえるよう配慮している。また、「茶碗拭くね」との利用者の声に応え、職員は感謝の言葉で返すなど、楽しい食事の雰囲気をつくっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月、栄養を考えた献立を立てており、個々に応じた量に好みの飲み物、器を変えたり工夫をしている。咀嚼、嚥下に支障がある入居者には、ペースト状の食事、トロミ付きの水分を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎年、職員が専門家による研修を受け、口腔ケアの必要性を学びケアに生かしている。毎食後の歯磨きの他、夜間ポリデント洗浄をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、失禁を減らしトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。立位が困難な方は、2人介助で対応し出来るだけトイレで排泄できるようにしている。	利用者一人ひとりの体調と、「トイレで」という本人の思いを尊重した支援を行うため、ケア方法を職員間で話し合っ、排泄の自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、起床時に冷たい牛乳を飲んで頂き、1日の水分量、運動量を把握し、排便困難な方には、腹部マッサージを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決めているが、体調に合わせて入浴日の変更を行っている。排便の汚れの酷い時、発汗時にシャワー浴を行い気持ち良く過ごして頂けるよう支援している。	体調に留意しながら、ゆっくりと入浴してもらい、また、羞恥心や自立心に配慮し、出来ることは自分でやってもらっている。夏場や失禁時などには、シャワーですっきりしてもらするなど、柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	健康状態に合わせ、日中でも休んで頂いている。日中のレクリエーションなどで体を動かして頂いたり、室内の温度や明るさにも気を配り、気持ち良く眠れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を常に確認できる場所に保管し理解している。誤薬を防ぐため、提供時に名前、日付、服薬内容を複数の職員で確認し、飲み込まれるまで見守っている。薬の変更があった場合、看護師より説明を受け、体調や症状を観察し報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、洗濯物たたみや茶碗拭きなどを、職員と一緒にしてもらっている。また、家族の協力により外出され、好きなカラオケに行ったり、買い物に行ったりされ、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	当事業所の周りは自然豊かで季節の移り変わりを日々感じ取ることができ、気軽に散歩に出ることが可能である。また、季節ごとの行事として、花見や紅葉狩り、坂の町アートなどにも出かけている。	事業所の周りを散歩し、近くの田んぼの水稻の生育具合などをあれこれ話し合っている。春には、地元のしだれ桜を見に出かけたり、稲穂が垂れる頃には、駐車場でおわら踊りを見物するなど、戸外で過ごす機会をつくっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、家族や成年後見人が行っている。一部の利用者のみお金を所持され、必要に応じて職員の付き添いの下、買い物をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ボランティアの協力もあり、年賀状カードや暑中見舞いをお渡ししている。家族から電話や手紙などの交流が持てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の周りには、季節の草花が咲き南側ベランダに出ることで肌で自然を感じることができる。フロアには、季節の花や利用者様が作成した塗り絵、ドリルなどを提示している。その日の温度と合わせ、室温の温度調整を行っている。	それぞれのユニットからテラスに出て、野鳥の鳴き声を聞いたり、家族が届けてくれた紫陽花をリビングに飾るなど、季節感や生活感を取り入れている。また、天気予報に気をつけ、室温などを利用者に合わせて調節し、快適な共用空間づくりに取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて利用者の思いをくみ取り、席替えをしたり、ゆっくりと外を眺めることができる場所へ移動してもらっている。陽だまりでは、ソファも置いてあり、何人かで過ごすことも出来る。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今までの生活の延長と考え、可能な限り使い慣れた家具や愛着のある品物を居室に置いてもらい、本人と相談しながら落ち着いた空間作りをしている。	八尾町史や広辞苑など、本人が興味があったものを本棚に並べたり、家族写真を壁に飾るなど、居心地よく過ごせる居室づくりに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり、手すりが各場所に設置されている。居室はその方の目線に合わせて表示しており、トイレや浴室はわかりやすく表示し、安全に過ごせるよう見守りを常に行っている。			

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム やつお  
作成日 平成29年 8月 4日

### 【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の消防訓練を行っているが、水害に対する避難計画がない。	行政と協働し、水害時における避難場所などの確認を行う。	①運営推進会議の中で、水害について話し合う。 ②ハザードマップを確認する。 ③水害時の避難場所を確認する。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。